

# 高等教育における「やさしい日本語」実践の可能性

中 石 ゆうこ

## 1. 問題の所在

2018年は国内で働く外国人労働者受け入れの議論が一気に加速した年となった。これを受けて、今後ますます日本で生活する外国人数が増加することが予想される。2017年末の確定値で在留外国人数は256万1848人、そのうち中長期在留者数は223万2026人と過去最高となっている（法務省ホームページ）。受け入れ側に立つ日本人の中でも2020年の東京オリンピックへの関心とも相まって、町で、職場で、学校で、「国際化」という言葉が現実感を伴って感じられるようになってきている。将来の外国人との交流を見据えて英会話学校に通うなどして英語力を磨くなど、外国人とのコミュニケーションを図るための手段にも日本人の関心が高まっている。

さて、日本語を話さない外国人とコミュニケーションを行う際、英語を用いるというのも有効な選択肢の一つである。しかし、相手が英語を解さない外国人の場合、どのようにコミュニケーションを取ることができるだろうか。外国人の母語を用いるというのは第一の選択肢である。しかし、日本国内の外国人の出身国数はおよそ190か国に及ぶとされ、英語、中国語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語だけでは、国内のすべての外国人に情報を届けることができないという指摘がなされている（田中・美野・越智・柴田 2013）。

外国人とのコミュニケーションに英語やその他の外国語を用いることができない場面も生じるだろう。そのような場面では、ボディランゲージ、筆談という方法が用いられるだろうが、日本語で情報を伝達する働きかけも有効である。これに対して、日本語教育学や日本語学においては近年、日本語で情報を伝達する際に日本語非母語話者にとっても分かりやすい構文や語彙があることが議論されている。そのうち、一定の構文、語彙使用のルールづけを行ったものが「やさしい日本語」である。しかし、「やさしい日本語」の活用はまだ十分でなく、多くの日本人にとって「外国人と話す＝英語」という図式になっているのが現状ではないか。

そこで本稿では、英語や外国人の理解できる母語などの外国語以外でコミュニケーションを行う際のバックアップの選択肢として「やさしい日本語」に着目し、その理念と作成技術を高等教育機関における授業で扱う意義を述べ、今後の活用の可能性について議論する。これ以降、本稿では、日本語母語話者を「日本人」、日本語非母語話者を「外国人」と呼ぶが、国籍と母語の関係はイコールではなく、本稿でのこれらの用語は母語を日本語とするかどうかで二分した便宜的なものである。

## 2. 「やさしい日本語」とは

「やさしい日本語」とは、簡単な語彙と文法から構成される、外国人にとって理解しやすい日本語である。「やさしい日本語」は1990年代に弘前大学の佐藤和之氏が外国人被災者の命を救うために「迅速に」「正確に」「簡潔に」災害情報を伝えるために、誰もが理解できる日本語という意味で使い始めた用語である（秋元・池上・加納・齋藤・西口・松尾 2014）。現在では、外国人への災害

時の情報提供の手段として注目されている。弘前大学人文学部社会言語学研究室では、「やさしい日本語」について日本語を学習し始めたばかりの外国人をターゲットとし、災害時に的確な行動を起こせるような日本語表現と定義し、その文章を作るためのガイドラインを定め、2010年1月17日に第1版、2013年3月11日に第2版を公開している（弘前大学人文学部社会言語学研究室ホームページ）。(1)に災害時の「やさしい日本語」活用の例として、ラジオ放送の「やさしい日本語」による言い換え例を挙げる。

#### (1) 実際のラジオ放送

今朝7時21分頃、東北地方を中心に広い範囲で強い地震がありました。  
大きな地震のあとには必ず余震があります。引き続き厳重に注意してください。

「やさしい日本語」での言い換え

今日 朝 7時21分、東北地方で 大きい 地震が ありました。  
大きい 地震の あとには 余震 あとから くる 地震が あります。  
気をつけて ください。

(弘前大学人文学部社会言語学研究室 2013より)

ラジオ放送のための「やさしい日本語」では、音で聞きとって分りやすいように「今朝」が「今日の朝」、「注意して」が「気をつけて」というように語彙の書き換えが行われている。「余震」は「あとからくる地震」というように、もとの語を残しつつ言い換えている。これは、「余震」という語が地震の情報収集時に外国人が知っておいた方がよい語と判断されたためであろう。もう一つの特徴として、情報の簡潔化も行われる。例えば、「21分頃」が「21分」、「東北地方を中心に広い範囲で」が「東北地方で」というように、一番重要な部分以外の情報は削ぎ落とされている。その結果、簡単で分りやすい日本語になっている。

さて現在では、災害時に加えて平常時においても外国人に向けた情報提供が必要であることが認識されるようになってきている。これは中長期在留者、すなわち一定期間日本で生活を営む生活者としての外国人を主なターゲットとしている。「やさしい日本語」活用に向けて、国、メディア、自治体が対応を始めている。そのうちの 하나가、ニュースウェブサイト「NHK NEWS WEB EASY」である。このサイトでは、2012年4月からNHKが1日3本のニュースを「やさしい日本語」に書き換えて公開している（田中他 2013）。

(2)に「NHK NEWS WEB EASY」の記事から一部を抜粋する。

#### (2) 通常版

アメリカ西部のカリフォルニア州で今月16日、「クマの親子がゴミをあさっていたところ、子グマがコンテナの中に閉じ込められてしまった」と住民から通報がありました。

(NHK NEWS WEB 2018年11月21日)

「やさしい日本語」版

アメリカのカリフォルニア州で16日、「<sup>しゅう</sup>母親と<sup>にち</sup>子どもの<sup>ははおや</sup>熊が<sup>こ</sup>ごみの<sup>くま</sup>入っている<sup>はい</sup>コンテナで<sup>た</sup>食べ物<sup>もの</sup>

をさがしていたら、子どもの熊がコンテナから外に出ることができなくなった」と警察に連絡がありました。

(NHK NEWS WEB EASY 2018年11月22日)

通常版と「やさしい日本語」版の記事を比較してみると、語彙に関しては、「親子」を「母親と子ども」、「あさる」を「食べ物を探す」、「子グマ」を「子どものクマ」、「閉じ込められた」を「出ることができなくなった」、「通報」を「警察に連絡」と言い換えている。このうち、「閉じ込められた」は、受動態であったものを「(子どもの熊が) 出ることができなくなった」と言い換えている。これは「出る」の可能形「出られる」よりも可能の文脈であることが明示的な「～コトガデキル」を用いているところに工夫がある。このように、「やさしい日本語」では語彙だけでなく、文法も分かりやすい形式に簡略化される。また、漢字に振り仮名が振られている。

「NHK NEWS WEB EASY」以外にも平常時の外国人に向けた情報提供としては、行政機関のホームページにおいても「やさしい日本語」によって、各種手続きの仕方、ゴミ出しの方法など、生活者として必要になる情報の提供が行われ始めている。

それでは、「やさしい日本語」が必要になる、日本語能力が十分ではない外国人はどれくらいの日本語力を持つことが想定されているのか。弘前大学人文学部社会言語学研究室(2013)によれば、災害情報を伝える「やさしい日本語」は日本語学習者が初期の段階で学ぶ約2000語の語彙と単文を主とした単純な構造で構成され、それは、ちょうど日本語能力試験N4、N5(日本語能力試験は2010年に改訂、それ以前の旧試験では3級、4級レベル)に相当する。

ここで基準となっているのが、日本語を母語としない人の日本語能力を測定し認定する試験である日本語能力試験(JLPT)である。それでは「やさしい日本語」が必要になるレベルである日本語能力試験N4、N5の日本語能力とは、どのようなレベルだろうか。以下は、日本語能力試験のホームページからの引用である。各レベル認定の目安が【読む】【聞く】という言語行動で表されている。

### (3) 日本語能力試験N4、N5認定の目安

#### N4

基本的な日本語を理解することができる

##### 読む

- ・基本的な語彙や漢字を使って書かれた日常生活の中でも身近な話題の文章を、読んで理解することができる。

##### 聞く

- ・日常的な場面で、ややゆっくりと話される会話であれば、内容がほぼ理解できる。

#### N5

基本的な日本語をある程度理解することができる

##### 読む

- ・ひらがなやカタカナ、日常生活で用いられる基本的な漢字で書かれた定型的な語句や文、文章を読んで理解することができる。

聞く

- ・教室や、身の回りなど、日常生活の中でもよく出会う場面で、ゆっくり話される短い会話であれば、必要な情報を聞き取ることができる。

N4では、「基本的な日本語を理解することができる」、N5では、「基本的な日本語をある程度理解することができる」ということが認定の目安となっている。詳しい言語行動として、N4であれば、基本的な語彙や漢字を使って書かれた日常生活の中でも身近な話題の文章を読んで理解することができ、また、日常的な場面で、ややゆっくりと話される会話であれば、それを聞いて、内容がほぼ理解できるとされる。それでは、読んで理解できる「身近な話題」、聞いて理解できる「日常的な場面」とはどのような話題、場面なのであろうか。また、それは日本人が何気なく行っている日常会話を「ややゆっくりと話す」ように心がければ、N4レベルの外国人には理解できるということだろうか。このように指摘する通り、この基準だけでは、その日本語レベルを持つ外国人には日本語でどんなことができるのか漠然としていて、一般の日本人には良く分からないだろう。

さらに、実状として、日本に滞在する外国人のすべてが日本語能力試験の受験経験を持つわけではないという状況がある。その場合、日本語能力を推測する際に日本滞在の年数が参考になると、まずは考えられそうなものであるが、滞在年数からだけでは日本語レベルについて十分に予想することはできない。なぜなら、その外国人の生活でどれくらい日本語を使用する機会があるか、どのような日本語を用いる機会があるかは人によって異なり、正確には判断できないからである。例えば、同じ言語を話す同国出身者などの仲間に頼って母語で生活している外国人の場合、1年日本に滞在したからと言って、日本語は「ありがとう」、「こんにちは」、「だいじょうぶ」、「だめ」など数語の定型表現を知る程度で、複雑なやりとりは仲間に代理で行ってもらうことで生活することも可能である。つまり、「日本で1年ほど暮らす外国人」という表現の場合、その外国人が接する日本語の質、量が分からず、その人の日本語能力を推測することは難しい。

そこで、日本語を学習する教室で、あるいは日本語教科書などを用いた自習で何時間程度学習したのかという、日本語学習時間数が指標として用いられることもある。しかし、日本語学習の質や学習者の母語によって、各レベルに達するまでの日本語学習時間は異なるため、日本語能力試験のレベルと学習時間は厳密には一定の相関関係にあるとは言えない。よって、学習時間もまた目安として捉えるべきである。

具体的な日本語能力の基準として、例えば「一人でバスに乗ったり、買い物ができたりする程度の日本語力を持つ外国人」（弘前大学人文学部社会言語学研究室ホームページ）というように、「日本語を使ってできること」を日本語能力の指標とする場合もある。「一人でバスに乗ったり、買い物ができたりする程度」と言った場合、少なくとも、初級の前半程度の日本語能力を有していることが推測できる。なぜなら、日本語を用いてバスに乗るためには、「県病院前」というように、自分の降りるバス停を聞き取る必要がある。また、バス路線が複雑な土地では、「県病院前は何番ですか。」、「これは県病院前に行きますか。」のように、バスに乗る前に周囲の人に確認するために、初級で学ぶ基本的な文型を用いて問いを発する必要がある。同じように、買い物をするためには、売り手が言った値段を聞き取ること、さらには、「これはシャンプーですか。」というように、手にした商品が買いたいものかどうかを聞く必要がある。よって、一人でバスに乗ったり、買い物ができたりするためには、少なくとも単語レベル、あるいは短文レベルで日本語を使ってやりとりを

きる日本語能力が必要である。「ACTFL言語運用能力ガイドライン2012年（スピーキング）」によれば、主にそれまでに経験したり暗記したりして思い出せる個別の単語や語句を用いて言いたい事を伝えることができるのは、初級レベルの能力であるとされる。

### 3. 「やさしい日本語」の言語的特徴

簡潔に述べると、「やさしい日本語」とは、外国人が日本語学習において早い時期に習った語彙や構文である。具体的には、先ほど触れたように、現行の日本語能力試験におけるN4、N5の語彙と構文（文型）に言語形式を制限する。N4レベルである初級後半では、文法としては尊敬語、謙譲語が学ばれ、他者への敬意を言語的に表せるようになる。受動表現、使役表現、モダリティ表現、名詞修飾節、条件節、引用節、埋め込み節など基本的文法形式が出そろい、単文から複文へと構造も複雑になる。現在の日本語教育では、N4レベルで日本語文法の土台が完成すると言ってよい。

さてここで、N4レベルの日本語能力の一部を示すために、ある初級日本語教科書最終課の読解練習の文章を引用する。N4レベルは初級後半であり、以下のものはそのレベルで読む文章である。

#### (4) 〈お礼のメール〉

もりまさ おさま  
森正夫 様

いま はな さ うつく きせつ  
今ドイツはいろいろな花が咲いて、美しい季節です。  
げんき  
お元気でいらっしゃいますか。

にほん せ わ  
日本ではほんとうにお世話になりました。  
にほん す ねんかん はや す  
日本で過ごした2年間はとても速く過ぎました。  
にほん い な おお みなさま めいわく  
日本へ行ったばかりのときは、わからないことや慣れないことが多くて、皆様にご迷惑をおかけしましたが、ほんとうに親切にしてくださいました。おかげさまで楽しく仕事ことができました。  
ありがとうございました。

にほん けいけん い あたら し ごと おも  
ミュンヘンでは、日本で経験したことを生かして、新しい仕事にチャレンジしたいと思っています。

ゆうめい びじゅつかん ふる しろ  
こちらには、有名な美術館や古いお城があります。  
いちど  
ぜひ一度いらっしゃってください。  
もり す ようい ま  
森さんがお好きなビールをご用意して、お待ちしております。

あ ひ たの  
では、またお会いできる日を楽しみにしております。  
みなさま つた  
皆様にもどうぞよろしくお伝えください。

カール・シュミット

(『みんなの日本語初級Ⅱ第2版本冊』第50課問題より)

文章の特徴として、尊敬語、謙譲語が見られること、「です」、「ます」のような丁寧体がいられること、全ての漢字に振り仮名が振られていること、使用される語彙の大半はN4、N5レベルであることが挙げられる。構文に関しては、単文が中心で、複文となる場合は、「花が咲いて」、「慣れないことが多くて」のように、ほとんどがテ節である。逆接の場合には、「ご迷惑をおかけしましたが」のように「ガ」による逆接節に限り用いられている。このように複文の接続形式が限られている点で、実は上記の文章は構造が簡単である。

この読解資料を見ると日本人は、これを理解できるだけの日本語能力があればコミュニケーションには十分だ、あるいは、敬語表現があり、予想以上に高度な日本語を用いているという印象さえ抱くかもしれない。しかし、日本語クラスでの読解では時間をかけて情報を読み取ることができる。また、少くく分らないことがあっても大きな問題につながることは少ない。

一方、日本での生活に必要な情報を読み取る場面では、的確に理解し、その指示通りに動かなくては、生活面、安全面に重大な問題が生じる。よって、「やさしい日本語」で用いる日本語のレベルとしては、初級前半のN5レベルでも通じる表現、つまり単文を中心に文章を構成し、どうしてもN5レベルでは表現できない場合に、初級後半のN4レベルの表現を使うことが望ましいだろう。このことから、具体的には、なるべく短い文で表現すること、尊敬語、謙譲語を用いないこと、受動態（例：間違いがいくつか見られる。）を避けること、名詞修飾節（例：公務員として働くランナー）を避けること、動作主が誰なのかを省略せずに示すことを行うと良いということが作成時のポイントになる。

N4、N5の文法を参考にする際には、日本語教科書で扱われる構文には、教科書の中の用法と実際の言語使用の用法で使い方にずれがあるものが存在することにも注意しなければならない。清（2004）では、「～ナイデクダサイ」という文型は、日本語母語話者の作文では、「気にしないでください。」「気を使わないでください。」のような配慮を表わす場面が全体の7割と多いが、日本語教科書では「ここで煙草を吸わないでください。」「治るまでお風呂に入らないでください。」のような禁止の表現が多く学ばれ、母語話者の使用と教科書の扱いに違いがあることを明らかにしている。この指摘から、例えば、日本人の「もう、遠慮しないでください。」という発言のうち、「しないでください」という部分だけ聞き取った日本語初級レベルの外国人が、何かを禁止されたと勘違いして申し訳なく感じてしまうという状況が考えられるかもしれない。筆者が聞いたエピソードでは、関西地方に初めて行った留学生が、「～な」は禁止の表現だという日本語教科書の知識から、終助詞「な」を伴う表現（例：「大変やろうな。」「しもたな。」）を聞いて、何かを禁止されているという誤解をしたという話がある。

このように、先に引用した日本語能力試験のN4の基準である「日常的な場面で、ややゆっくりと話される会話であれば、それを聞いて、内容がほぼ理解できる」という日本語能力の外国人の場合、日本人側が語彙や文法を選択するという配慮がなければうまくコミュニケーションが成り立たないことが分かる。また、日本語教育の教科書で学ぶのは共通語であるため、方言に出会って苦勞する外国人も多い。日本人が何気なく行っている日常会話を「ややゆっくりと話す」ように心がけるだけでは、N4レベルの外国人に十分に理解できるわけではないことを、日本人は知っておくべきだろう。

さて、教科書の中の用法と実際の言語使用の用法で使い方にずれがあるものとして、「～マショウ」という表現もある。「～マショウ」は、日本語教育においては初級で学ばれる文型で、一緒に何かをするように勧める「勧誘」の用法が学ばれる（国際交流基金・日本国際教育支援協会1994）。例えば初級日本語教科書では、以下のような例文が見られる。

(5) マシヨウの例文

ちょっと 休みましょう。

あした 10時に 駅で 会いましょう。……わかりました。

(『みんなの日本語初級 I 第2 版本冊』 第6 課文型・例文より)

一方、「マシヨウ」は誘いの機能であるとは限らず、日常生活では、「ご飯の前には手を洗いましょう。」「履物は揃えましょう。」「咳が出る時はマスクをつけましょう。」という表現が掲示物などに見られ、指示、あるいは柔らかな命令という機能を持つ。

中俣(2014)によれば、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)に出現する「マシヨウ」を動詞の出現頻度順で並べた上位には、「(気を)つけましょう」、「～するのはやめましょう」のように、指示の用法で用いられる動詞が多い。生活のルールを指示する際に「マシヨウ」が用いられることがあるが、「誘い」という意味しか知らない外国人にとっては、意味が良く分からない文になってしまう可能性がある。これについては、弘前大学人文学部社会言語学研究室(2013)でも、「マシヨウ」には勧誘の意味もあるので、指示を表わす文には「テクダサイ」を使うように作成ルールで規定されている。

ただし、「マシヨウ」は、日本語学習者にとってなじみのある活用形である動詞のマス形(例：洗います→洗いましょう)を使って、指示を表わすことができているという良い面もある。一方、指示を表わす文として奨励される「テクダサイ」(例：洗ってください)は、「書く」→「書いて」、「読む」→「読んで」、「買う」→「買って」などIグループ(五段動詞)では動詞ごとに音便化が必要であり、音便化した後の形は辞書に載っていないため、理解が難しい可能性がある。国内の初級日本語教科書の多くは「マス形」から学ばれることが多い(高嶋2018)。このため、「テクダサイ」というテ形を用いた表現は、初級前半の学習者にとっては難しい可能性がある。この点から見れば、掲示物の「マシヨウ」は「指示」を表すという規則を知っておけば、「テクダサイ」よりも分かりやすい文型であるかもしれない。

日本語教科書での提出順序を「やさしい日本語」によるコミュニケーションに生かすために、さらに続けて述べると、日本語能力が十分ではない外国人に対して何かを指示する際には、「テクダサイ」という表現では理解が難しい場合は、「マス」形に言い直せば、理解できる可能性がある。それでも難しい場合、辞書形(終止形)で言い直せば、指示を受けた外国人は辞書を活用して動詞の意味を理解することができる。このように、外国人がある表現で理解できなければ、より簡単に言い換えるという方法ができることが、外国人に対して日本語を用いる際の理想であるのかもしれない。

庵(2015)では、動詞の活用をマス形「～マス」、「～マセン」、「～マシタ」、「～マセンデシタ」(例：行きます、行きません、行きました、行きませんでした)、すなわち学校文法でいうところの連用形に限る段階(Step1)と、それ以外の様々な活用、例えばテ形(日本人が学校教育で学ぶ、学校文法では連用形)、ナイ形(学校文法では未然形)、辞書形(学校文法では終止形)などを含めて産出したり、理解したりできる段階(Step2)を区別している。そして日本語学習が段階的にStep1からStep2へと進んでいくように設計されている。初対面の日本語学習者に対して日本語を用いる際には、まずはStep2で話してみて、理解が難しそうならば、Step1にする。Step2でも簡単に理解しているようならば、通常のコントロールしていない日本語で話し、理解に困難が生じれば、Step2に戻るといったような言語的調整を、通常日本語教師は行っている。

語彙・文法以外の「やさしい日本語」の特徴としては、漢字には振り仮名が振られることがある。平仮名ではなく、漢字に振り仮名を振るという手段が取られるのは、漢字圏の外国人にとっては、平仮名ではなく漢字で表記される方が分かりやすいからである。また、もう一つの特徴として、すでに触れたが、不必要な情報は削除される。よって、主語が省略されていたり、複文が続いたりするような構文が複雑な文章を「やさしい日本語」で置き換えるためには、一文ごとの書き換えという逐語訳のような方法では不十分な場合もあり、むしろ文章全体を通して情報を読み取り、重要な部分を抜き出し、それが伝わるように構成を練り直し、語彙、構文を簡潔なものに書き換えるという作業が必要になる。

#### 4. 「やさしい日本語」と社会

外国人労働者受け入れに向けて、新聞などのメディアでも受け入れられる外国人の日本語能力の要件が示され、説明されるのを目にするようになった。中国新聞（2018年9月25日朝刊）でも報道されているように、外国人技能実習生のうち介護の実習生は入国時の日本語能力試験でN4程度、すなわち「基本的な日本語が理解できる」能力が要求されると言われている。「基本的な日本語が理解できる」レベルの外国人と言った場合、具体的にどのような日本語でコミュニケーションを取れば、意志の疎通が図れるか日本人は意識しているだろうか。

外国人労働者受け入れが議論される際、市民には外国人労働者を受け入れるかどうかという二択で問われることが多い。しかし、もし受け入れるのであれば、その外国人が日本で孤立せず、日本に暮らす人々と良い関係を築き、生活していけることを保証する必要がある。そのために、外国人への日本語教育支援を法的に整備していくことは重要である。しかし、それと同時に日本人側が外国人の日本語能力に合わせて日本語を理解しやすく言い換えることができれば、より早い段階で、外国人と日本人とのコミュニケーションがうまく行くようになる。

受け入れ側、受け入れられ側という、支配、被支配の関係が生じがちな二つの集団の境界を超えて、お互いの距離が近づくためには日本人側の働きも重要である。受け入れられる側に一方的な適応を迫るのではなく、お互いが自文化を保ちつつも、行動の仕方は相手との間で折り合いをつけていく双方向からの調整が必要である（倉地・岡田・影廣・島崎・森・リャウ1998）。

庵（2013）では、双方向の歩み寄りとして、外国人側に最低限の日本語習得を求める一方で、日本人側もその日本語に合わせて調整する訓練が必要であることが提言されている。そして、日本人と外国人の調整過程に位置するのが「やさしい日本語」とされるとされる。

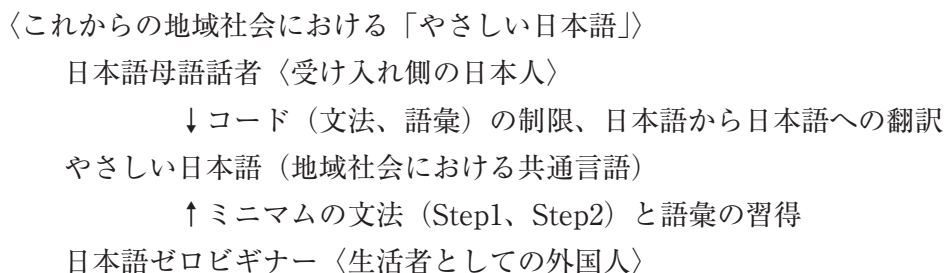


図1 受け入れ側、受け入れられ側の調整過程に位置する「やさしい日本語」（庵2013より）



この提言に従えば、言語面で受け入れられる側の習得を期待するだけでなく、受け入れる側からも、分かりやすく、誤解を生じない日本語への置き換えを工夫することで歩み寄りを行うこととなる。これは、まさに共生の理念に沿うものであると言えるだろう。

コミュニケーションを満足に取ることができないフラストレーションの高い状況では、それが誤解を生じがちである。それが続くと次第に日本人と外国人との住み分けが起こり、お互いに必要最低限の交渉を行うのみで、実質は不干渉を貫くような不安定な国際化社会を迎えてしまう可能性がある。そのような表面的な共生を避けるためには、両者が用いることができるコミュニケーションのツールとそれを用いたコミュニケーションの機会が必要である。

「やさしい日本語」はその一つのツールとなり得る。日本語を用いつつも、場合によって相手の理解しやすいように使用する言語を臨機応変に切り替えて行く。それは、日本人のイメージする「日本語力」とは異なる言語運用力を要求するものであり、日本語母語話者の新しい言語使用のスキルを伸ばすチャンスであるとも考えられる。「やさしい日本語」はこれまでの日本語を侵害するものではなく、むしろ場合や相手に配慮した使い分けのしかたを促すことで、言語使用にこれまで以上に豊かさを産むものとなるであろう。

## 5. 高等教育における「やさしい日本語」実践の意義

日本人は、もし外国人向けに何かを説明する資料を作成することになった場合、どんな文献、資料を参考にするだろうか。そこで、広島県内の高等教育機関において、2014年に「日本語教育学」に関する授業を受講した大学生（日本人）36名に対してアンケート調査を行った。調査では、「仕事の資料を外国人に向けてやさしい日本語で作成することになりました。作成のために見ておきたい資料を挙げてください。（例：初級日本語の教科書）」という問いを設定して、大学生が参考にすると思う資料を聞いた。回答は複数回答であった。

アンケートの結果、36名中22名（61.1%）が日本人幼児または小学生向けの資料を参考にすると答えていた。それは、具体的には小学校の国語教科書、漢字ドリル、絵本などであった。この結果から、過半数の大学生が外国人向けの資料と日本人幼児・小学生向けの資料に用いられる日本語を同じようなものと考えていることが見て取れる。

日本人幼児向けの絵本、あるいは小学生低学年向けの国語教科書を日本語能力が十分ではない外国人向けの資料を作成する際に参考にすることができるのであろうか。それを確かめるために、先に挙げた、N4レベルの初級日本語教科書の読解文〈お礼のメール〉と小学校2年生の国語科の教科書の説明文〈木を切りたおすビーバー〉を、高等教育機関で学ぶ中級レベル以上の留学生9名（インドネシア語母語5名、中国語母語4名）に読んでもらい、それぞれの文章について難しさを4段階（とても簡単-まあ簡単-まあ難しい-とても難しい）で評定してもらった。留学生の日本語能力は、日本語能力試験の取得級N1が2名、N2が3名、N3が3名、不明（但し、送り出し校がN2相当と認定）1名であった。いずれも日本語で行われる大学の講義を日本人と共に受講する留学生である。

### (6) 〈木を 切りたおす ビーバー〉

ここは、北アメリカ。大きな 森の 中の 川の ほとりです。

ビーバーが、木の みきを かじって います。

ガリガリ、ガリガリ。

すごい はやさです。木の 根元には、たちまち 木の かわや 木くずが とびちり、みきの回りが 五十センチメートルいじょうも ある 木が、ドシーンと 地ひびきを 立てて たおれます。

ちかよって みますと、上あごの 歯を 木の みきに 当てて ささえに し、下あごの するどい 歯で、ぐいぐいと かじって いるのです。するどくて 大きい 歯は、まるで、大工さんの つかう のみのようです。

(なかがわしろう「ビーバーの大工事」『新編 新しい国語二下』東京書籍より抜粋)

留学生による難しさの評定結果は表1の通りである。〈お礼のメール〉では、「とても簡単」と答えた留学生が6名と一番多かった。一方、〈木を切りたおすビーバー〉では、「まあ難しい」と答えた留学生が5名と一番多かった。2つの文章について個人の回答を比較すると、9名のうち8名の留学生が〈木を切りたおすビーバー〉の方が難しいと評定していた。

表1 留学生による二つの文章の難しさの評定

(n=9)

	とても簡単	まあ簡単	まあ難しい	とても難しい
お礼のメール	6	3	0	0
木を切りたおすビーバー	0	3	5	1

文中の難しいと思う表現、単語に印をつけてもらったところ、〈お礼のメール〉では印をつけた数が1箇所だったのが4名、0箇所が5名だった。一方、〈木を切りたおすビーバー〉では3箇所が2名、4箇所が1名、6箇所が2名、7箇所が1名、8箇所が2名、12箇所が1名だった。

〈木を切りたおすビーバー〉は、文章の特徴として、「です」「ます」のような丁寧体が用いられることが日本語初級教科書と共通する。一方、漢字に振り仮名がなく、難しい漢字は平仮名で書かれていること、使用される語彙に日本語学習者向けの『日本語能力試験出題基準』のような制限がないことが違いとして挙げられる。構文に関しては、単文と同じ程度に複文も多く、接続の仕方も、「地ひびきを立てて」、「するどくて」というテ節だけではなく、中止節の「とびちり」、「ささえにし」や、「ちかよってみますと」のように「ト」を用いた条件節による接続も見られる。さらに、「すごいのはやさです。」のように、主語が省略されている部分もあり、文の構造が難しい。

以上のことから、小学校2年生の国語科の教科書の説明文は、中級以上の日本語能力を持つ外国人であっても分かりやすい日本語というわけではないことが分かる。よって、小学校低学年の国語科の教科書は、日本語能力が十分でない外国人に向けた資料を作成する際には参考にはならない。

しかし先のアンケート調査では、過半数の大学生が外国人向けの資料作成に日本人幼児・小学生向けの資料を参考にするとして答えていた。このことから、日本人が外国人向けの資料を作成する際には子ども向けの資料を参考にして案内文を作る可能性があるが、それでは十分に伝わらない資料になってしまうという状況が懸念される。日常生活や職場という場面で外国人と協働する機会が増えてくる今後の日本では、日本語能力が十分でない外国人に向けて、日本語の資料を作成する機会も増えてくるだろう。その作成技術を高等教育で学ぶ意義があるのではないだろうか。

学ぶべきは外国人向けの文書の作成技術だけではない。外国人への対応と子どもへの対応とは異なる。しかし、実際にはその混同が起こっている。子どもに話しかけるような対応を日本人が行ったために、外国人が不愉快な思いをさせた例として、イ（2013：270）の事例がある。イ自身の経験であるが、日本のある行政機関での窓口での対応で、まるで子供に向かって言うような口の利き方で、「ほらほらあなた、忘れないでね。」「だめじゃないの、そんなことしたら。」「明日までに持ってくる。わかったわね。」というように、窓口を訪ねる日本人への接し方とは異なる接し方をされ、自尊心が傷つけられた経験があったことが記されている。このような対応については、その人の言語力と知的発達段階を同一視してしまったことによる問題として捉えることができる。日本語能力が十分でない外国人に対して幼児に対するような言葉遣いをしてしまう事例は荒川（2010）にも指摘されている。

外国人は日本語以外の母語を持ち、その母語では十分な認知能力、思考能力を既に有する存在である。一方、子どもは言語能力の発達と認知能力、思考能力の発達が同時期に起こる。その二者を、日本語の能力が不十分な段階であるからと言って同等にみなしてはならない。外国人と接する際には伝わりやすい言語的な技術に加え、どのような態度で接すればよいか理解しておくこともまた重要である。この点については、庵（2016）の「やさしい日本語マニュアル」にも「尊敬の気持ちで」という心得が掲載されている。

外国人とのコミュニケーションを取る機会が増えるこれから先の日本では、通常使っている日本語だけでなく、それを外国人にとって分かりやすい日本語に置き換える能力は有用である。そのツールとして「やさしい日本語」の作成技術を高等教育における授業で身に付け、さらに、なぜそれが必要になるのか、どのような態度で外国人と接するべきなのかを理解した上で外国人と接することが望まれる。野田・森口（2014）は、高等教育機関の「日本語表現法」、「文章構成法」などの授業のテキストとして用いられることが想定されているが、そのうちの1つの章は「日本語弱者のことを考えて書く」というテーマに向けられ、「日本語があまり得意ではない人」に対して、どのような情報をどのような順序で書けばよいか、教授者と受講生が双方向的に考える機会を提供するつくりとなっている。また別の先駆的な取り組みとして、弘前大学のオープンキャンパスでは、大学生が高校生に対して「やさしい日本語」について紹介する機会を持っている（朝日新聞朝刊2017年12月7日21面）。「やさしい日本語」の意義を理解してもらう取り組みが高等教育を超えて広がりを見せている。

高等教育で「やさしい日本語」という概念を知り、それによるコミュニケーションを実践する機会を得ることは、英語やその他の外国語を用いることができない状況であっても日本語を用いて日本語非母語話者とコミュニケーションする意識や能力を大学生に芽生えさせることになるのではないだろうか。これからの国際化の流れの中で、「やさしい日本語」の理念を知ることで、外国人と接する一市民のスタンス、そして他者配慮の理念に裏打ちされた日本語の技能を育むことが重要である。

## 参考文献

秋元美晴・池上摩希子・加納千恵子・齋藤ひろみ・西口光一・松尾慎（2014）「特集『『やさしい日本語』の諸相』について」『日本語教育』158号, pp.1-3.

- 荒川洋平 (2010) 『とりあえず日本語で もしも…あなたが外国人と「日本語で話す」としたら』  
スリーエーネットワーク
- 庵功雄 (2013) 『「やさしい日本語」とは何か』 庵功雄・イヨンスク・森篤嗣編 『「やさしい日本語」は何を目指すのか 多文化共生社会を実現するために』 ココ出版, pp.3-13.
- 庵功雄 (2015) 「日本語学的知見から見た初級シラバス」『データに基づく文法シラバス』 くろしお出版, pp.1-14.
- 庵功雄 (2016) 『やさしい日本語—多文化共生社会へ』 岩波新書
- イヨンスク (2013) 「日本語教育が『外国人対策』の枠組みを脱するために 『外国人』が能動的に生きるための日本語教育」 庵功雄・イヨンスク・森篤嗣編 『「やさしい日本語」は何を目指すのか 多文化共生社会を実現するために』 ココ出版, pp.259-278.
- 倉地暁美・岡田英子・影廣陽子・島崎ゆうこ・森恵理香・リャウユンチン (1998) 「適応再考：留学生を対象とした異文化適応のための取り組みの検討」『広島大学日本語教育研究』 第8号, 広島大学大学院教育学研究科日本語教育学講座, pp.41-48.
- 清ルミ (2004) 「コミュニケーション能力育成の視座から見た日本語教科書文例と教師の“刷り込み”考：『ないでください』を例として」『異文化コミュニケーション研究』 16, 神田外語大学, pp.1-23.
- 高嶋幸太 (2018) 『日本語で外国人と話す技術』 くろしお出版
- 田中英輝・美野秀弥・越智慎司・柴田元也 (2013) 『「やさしい日本語」による情報提供 NHKのNEWS WEB EASYの場合』 庵功雄・イヨンスク・森篤嗣編 『「やさしい日本語」は何を目指すのか 多文化共生社会を実現するために』 ココ出版, pp.31-57.
- 中俣尚己 (2014) 『日本語教育のための文法コロケーションハンドブック』 くろしお出版

## 参考資料

- ACTFL Proficiency Guidelines 2012 「Japanese スピーキング」  
〈<https://www.actfl.org/publications/guidelines-and-manuals/actfl-proficiency-guidelines-2012/japanese/スピーキング>〉 (2018年11月28日)
- 朝日新聞 「やさしい日本語みんなにやさしい」 (2017年12月7日朝刊21面)
- NHK NEWS WEB「閉じ込められた子グマを警察官が救出 動画に称賛相次ぐ」 [2018年11月21日 8時33分] 〈<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20181121/k10011718341000.html>〉 (2018年11月25日)
- NHK NEWS WEB EASY「アメリカ コンテナの中から子どもの熊を警官が助ける」 [11月22日 16時15分]  
〈<https://www3.nhk.or.jp/news/easy/k10011718341000/k10011718341000.html>〉 (2018年11月25日)
- 国際交流基金・日本国際教育支援協会 (1994) 『日本語能力試験出題基準改訂版』 凡人社  
スリーエーネットワーク (1998) 『みんなの日本語初級 I 第2 版本冊』 スリーエーネットワーク  
スリーエーネットワーク (1998) 『みんなの日本語初級 II 第2 版本冊』 スリーエーネットワーク  
中国新聞 「介護実習生に学費援助」 (2018年9月25日朝刊1 面)
- 東京書籍 (2014) 『新編 新しい国語 二下』 東京書籍

日本語能力試験「日本語能力試験とは」〈<https://www.jlpt.jp/about/index.html>〉(2018年11月18日)

野田尚史・森口稔(2014)『日本語を書くトレーニング第2版』ひつじ書房

弘前大学人文学部社会言語学研究室(2013)『増補版「やさしい日本語」作成のためのガイドライン第2版』弘前大学人文学部社会言語学研究室

弘前大学人文学部社会言語学研究室「Q12 どうして『やさしい日本語』作成のためのガイドラインを作ったのですか?」〈<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/EJ2shitsumon.htm>〉(2018年11月15日)

法務省「平成29年末現在における在留外国人数について(確定値)」

〈[http://www.moj.go.jp/nyuukokukanri/kouhou/nyuukokukanri04\\_00073.html](http://www.moj.go.jp/nyuukokukanri/kouhou/nyuukokukanri04_00073.html)〉(2018年11月25日)